



## 画期的な商品！ 持続可能なシャワー 『温かいシャワーを浴びる人』

ドイツ人は毎日風呂に入る習慣はなく、シャワーも数日に一回という人がたくさんいる。もともと湿気が少なく空気は乾燥気味なので、頻繁にシャワーや入浴すると肌が乾燥してよくないと。日本のように一日の疲れをとってリラックスするという考えはないようだ。

毎日シャワーを浴びない人が多いとはいえ、ドイツ家庭でのエネルギー消費は1位が暖房、2位が入浴（シャワー）となっている。そのシャワーのエネルギーを再利用しようと思われたのが、「温かいシャワーをする人（Warmduscher）」である。ハノーファー在住のオリバー・バウムさんが開発し、特許を取得した。シャワーの際の3、4割のエネルギーを節約できるという。

しくみはいたって簡単。足の下の鉄板内に水の配管を敷いてあり、水は鉄板を通してからシャワーの温水として頭上から出てくる。シャワーをしている間、その湯が床に当たって足下の鉄板を通る水が温められる。熱交換の原理に基づいている。鉄板の上に直接立つと冷た

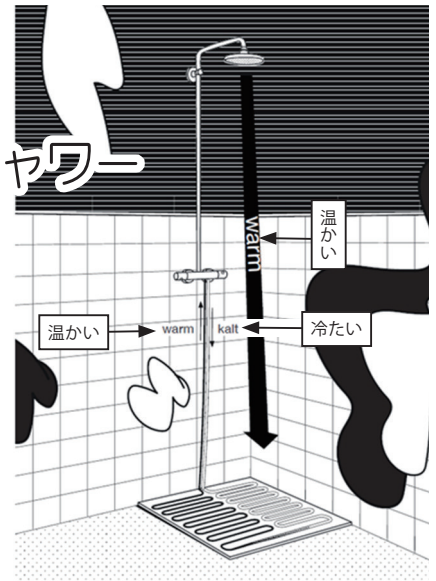
いので、竹製の板を上に乗せており、竹板は熱や湿気でも腐りにくいよう加工している。値段は500ユーロ（6万5000円）から1000ユーロ（13万円）であり、設置には10分ほどしかかからない。

34歳のバウムさんはハノーファー大学で機械工学を学び、持続可能について考えながらいろんなものを試作してきた。今回はクラウドファンディングで資金を集め、商品開発にこぎつけた。

ドイツの革新コンテストである「メイクトゥモロウ・ニュー」で2位、またオランダの「グリーンチャレンジコンテスト」で持続可能な企業として2位に輝いており、その効果はお墨付きである。

賞金17万ユーロ（2000万円）が入り、5人雇うまでとなったが、まだまだ経営は厳しいという。部品の一部は、隣の心身障害者施設に製作を依頼するなど地元とのつながりを大切にしている。

ホームページには製品の説明だけでなく、シャワーの際のエネルギー節約のコツをのせている。シャワーヘッドの高さや水圧、個々の水穴の向きが重要であ



る。水が体に当たらず、ただ流れ落ちているならもったいない。また瞬間湯沸かし器の場合、最初から高温になるよう蛇口をひねると、熱いお湯が早く出ると、ホースが温まることで湯を高温に保てるという。

また夜よりも朝浴びるのがお勧め。夜だとゆっくり浴びてしまうが、朝は時間がないので短時間で済ませるからだ。

どうすれば効率よくエネルギーを利用できるのか、持続可能な社会を実現できるのかは、一見おおごとで難しいように思える。けれどこのシャワーのように、ちょっとした工夫で日常的に節約できる。考え続けること、あきらめないこと、ビジョンを持つこと。それが成功の秘訣なのだと思った。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

### AKIRA の 成長記録

明は中学3年生。コロナ禍となつてから日本への里帰りできずにいましたが、今年は義務教育最後のチャンスなので、夏休み明けの8月23日から10月末まで長野県の実家で中学校に通うことにしました。日本の学校からの通学許可とドイツの学校からの休学許可が出てほつとしたところ。

10月後半ドイツは秋休みなのでドイツで授業を休むのは7週間、けれど日本では10週間通えます。ドイツの勉強内容は自分で学習することになっています。

その話をドイツ人の元教師にしたら「子どもは休みが必要なのに、休み中も学校に通わせるなんて」と批判的。ドイツでは休み中宿題はなく、のんびりして心身ともにリフレッシュするのが目的なので驚いたみたい。けれど明は「日本の学校、楽しいよ。ぼくにとっては遊びみたいなものだ

から」とさらり。「でも本当は嫌でしょう」とたたくかけられても「いや、うれしい。楽しみ」と答えました。

明はもともと日本での登校に乗り気ではなく、オーストラリアに半年留学したいと言っていました。けれど私が「来年オーストラリアに留学するなら、まず日本で2ヶ月学校に行くべし」と条件をつけたので、しぶしぶOKしたのでした。けれど他人がきいてくれたおかげで、まったく嫌がっていないことがわかって安心。漢字が難しいと文句をいいながらも、日本でずっと同じクラスだった友達に「また行くよ、学校の様子教えてね」と、葉書を書きました。

出発は8月7日。小学校には毎夏通つたけれど、中学校は初めて。制服はあるし、受験を控えて勉強は大変そうだし、いろいろ初めてのことばかりでときどきです。けれど明は「3年ぶりの日本だなー。東京行きたい、都会見たい、スカイツリー登りたい」と、信州や学校よりも人口的な大都会に期待いっぱいです。